

令和7年度第5回 感染症発生動向調査協議会

議事概要

1 日 時 令和7年8月20日(水) 14:00～

2 場 所 岐阜大学医学部本館 1階 入札室(岐阜市柳戸1-1)

3 出席者

委 員 : 馬場 尚志(岐阜大学医学部附属病院 生体支援センター センター長)
川本 典生(岐阜大学大学院医学系研究科 小児科学 臨床教授)
澤田 明(岐阜大学医学部附属病院 眼科 臨床准教授)
加藤 達雄(国立病院機構長良医療センター 院長)
和泉 孝治(岐阜県産婦人科医会 岐阜地区 理事)
高橋 義人(岐阜県総合医療センター 中央検査部部長 兼 臨床検査科部長)
オブザーバー: 臼井 啓介(岐阜市保健所 感染症・医務薬務課 感染症1係 主任)
事 務 局 : 松尾 孝和(感染症対策推進課 感染症対策監)
松岡 真史(感染症対策推進課 技術主査)
野池 真奈美(保健環境研究所 主任専門研究員)
吉田 菜穂(保健環境研究所 専門研究員)

4 議 題 (進行:加藤委員、高橋委員(STI))

- (1) 前月の感染症発生動向について
- (2) 検討すべき課題について
- (3) 情報提供すべき事項について
- (4) その他(感染症対策推進課から)

5 議事概要

【前月の感染症発生動向について】

- ・事務局からの説明は資料のとおり。
- ・月番委員のコメントについては資料のとおり。
- ・(委員から) コロナの感染が相当多くなっていると思っておりますが、ARIは5月以降ほぼ横ばいとなっています。コロナ感染者の増加がもう少しARIの報告数に影響するかと思っておりましたが、今の時点で反映されていません。1シーズン通してみても必要があります。
- ・(委員から) 新型コロナ感染症の流行後、4月5月になっても風邪をひいている人が一定数いて、なかなか減っていかない印象があります。

【検討すべき課題について】

○梅毒の感染状況について

- ・(委員から) 感染機会が不明であることも多いですが、プライバシーの問題がありなかなか聞けない状況があります。性感染症は感染機会が共通するので一緒に増えるはずなのですが、梅毒だけが増えています。性風俗店以外のところで広がっているのではないかと危惧しています。

- ・(委員から) 全数把握感染症ではありますが、過去の調査結果を踏まえても、報告されていない患者がいるのではないのでしょうか。また、患者の中には、梅毒という病気そのものを知らない、どれだけ怖い病気かということを知らない方もいると、泌尿器科の先生から聞いています。
- ・(委員から) SFTSのように亡くなった方がいたり、百日咳のように感染者の絶対数が多かったりすると気を付けようという話になりやすいですが、梅毒の場合は印象が薄くなってしまふのかもしれない。感染者が増えている、場合によっては死亡することもある怖い病気であるということを含めて啓発するとよいのではないのでしょうか。
- ・(委員から) 届出書には、例えばSNSを利用したマッチングなど、性風俗店以外の感染機会について記載する欄がありません。学会でも感染経路の分からない症例が増えているというデータが出ているので、国も把握して対策を考えていると思います。
- ・(事務局より) 近日中にぎふ感染症かわら版を発行して、注意喚起する準備を進めています。